



2階の構成が1階の風景をつくる。

**作品の紹介**

他者との無言の対話に思いを馳せる力こそ、音楽家として研ぎ澄ますべき素養であると気付かされる、桐朋学園大学音楽学部のキャンパスである。仙川のキャンパスが老朽化したため、同じ調布市の学生寮を撤去し、その跡地への移転建て替えが進められた。

典型的な郊外住宅地で周辺の高層マンション化も進む中、あえて地上二階、地下一階の低層化を図り、独奏のレッスン室を二階へ、大型のアンサンブル室は地下に置



南西外観



# 桐朋学園大学 調布キャンパス 一号館

いて防音対策を兼ね、計四〇室を高密度に納めている。戸建住宅のスケール感に調和させたレッスン室はRC造の箱体に分節され、角型鋼管巻きRC造の細柱でピロティ状に持ち上げられたその不均質な分散配列は、部分的に微小な変化を示しながら不思議な全体的一体感を見せている。

全体と部分についてのこの建築の最大の成果は、BIMという手法の先進性によって達成されている。第一の成果は、遮音性と開放性の両立である。多様な楽器によるクラシック音楽特有の微妙に異なる気積の要求に合わせて、揺れ動くような路地状廊下が緩衝帯となり遮音性を生み出すと同時に、その路地へ視線を開くレッスン室や路地から近隣への視線を遮りつつ光や風を導入する試みが、音楽教室にありがちな閉鎖性から解放している。

二階廊下の壁位置は、開口・段差・屈折の微調整によって操作され、三次元の直交座標上で水平垂直に制御されている。一方、RC打放し素地仕上げと角型鋼管の不



音楽室の単位が外壁を分割する。

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。  
この賞は、1960年にはじまり2017年で58回を数えます。

< 2017年 第58回 BCS賞受賞作品 > 静岡県草薙総合運動場体育館(このはアリーナ) 新宿東宝ビル 太子町新庁舎「太子の環」 人がつどう・まちをめぐる・太子がつながる 竹中工道具館新館 教習駅交流施設「オルパーク」 駅前広場キャンビー TSURUMIこどもホスピス 東京駅八重洲口開発: グランルーフ、グラントウキョウノースタワー、グラントウキョウサウスタワー、駅前広場 TOTOミュージアム 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 としまエコムーゼタウン TOYAMAキラリ 虎ノ門ヒルズ(環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業Ⅲ街区) 直島ホール MIZKAN MUSEUM YKK80ビル [特別賞] 日本橋ダイヤビルディング「江戸橋倉庫ビル」の保存・再生 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館



# 建築主 より

## 音楽教育にふさわしい場を求めて

元々は学生寮があった調布の敷地を調布キャンパスとして再整備を図った計画です。計画にあたっては、設計者には仙川キャンパスにある既存校舎の利用状況、使い勝手などについて十分に調査をしてもらうとともに、教授陣や学生へのヒアリングを行っていただき、使いやすく、愛着が湧き、それでいて音楽教育の場にふさわしい性能と芸術性とを兼ね備えた校舎のデザインをお願いしました。

更には、近隣にご迷惑をおかけしないように、ボリューム感を抑え、十分な遮音性を備えつつも、一般大学に比べ在校時間が長くなりがちな音大生たちが、レッスンの合間にリラックスが出来るよう、窓から見える緑等の風景への配慮も求めました。

最終的に誕生した、低層でかつボリューム感が分節された校舎は、私どもの希望に即したものとなり、満足しております。



学校法人桐朋学園  
桐朋学園大学  
事務局長  
**沼崎 栄一**  
Eiichi Numazaki

# 設計者 より

## 自然光の溢れる快適な音楽大学を目指して



株式会社日建設計  
常務執行役員  
設計部門副統括  
**山梨知彦**  
Tomohiko Yamanashi

音楽大学の校舎といえば、とかく遮音を気にして厚いコンクリート壁で囲まれるため、自然光が入らない閉塞的なものになりがちです。本計画では、音楽大学の施設としての性能はきちんと確保しつつ、快適な名門大学にふさわしい施設づくりを目指しました。

施設を使われる先生方や学生にとって快適であるように、まずはできるだけ低層にすることを試みました。低層にできれば、近隣の方々に

も快適さをもたらすことができるはずでした。廊下部分に周辺に溢れる緑に向けた大型の窓を取り、各レッスン室が廊下に対しても大型のガラス壁を持つ形式を採用したことで、必要な遮音性能を確保しながら、自然光と緑への眺望を持った快適な施設とすることができました。

私どもが設計をさせていただいたこの学校から、世界的な音楽家が巣立っていくことを楽しみにしています。



2階テラス。音を拡散させる音響壁。



部屋を介して自然光を取込む(2階)。

規則な柱列という、削ぎ落とした要素の荒々しさを一階ロビー空間から見渡す時、その重層的な形態操作がむしろ視覚的な「揺らぎ」と解放感を生み、前庭や光庭を取り囲むそれぞれの光の休息所は一階全体の賑わいへ「路地から広場へ」と広がり、学生たちの人気の場所となっている。

第二の成果は、情報統合と合意形成の高度化である。設計者は計画初期のヒヤリングに多くの時間を費やしたという。旧校舎の使用の勝手の評価分析に始まる指導教官との濃密なやり取りの末、フラッターエコーの抑止についても、角

度をつけた対向面と吸音壁ではなく、平行面の反射壁に拡散形状の音響レイヤを取り付けるユニークな解法に到達している。

教室を兼ねる矩形の室形状と、内装を兼ねる暖かみのあるナラ集成材の拡散板ユニットという、機能性・意匠性に生産性も加えた、言わば「在りよう」から「遣りよう」への転換は、施設の隅々まで使い尽す有用性の最大化という点において、BIMという手法のレベルをはるかに超えて、建築主、設計者、施工者の知恵を統合した高い完成度に達している。

学生たちは、この施設の廊下とレッスン室を「街と家」のようにさまよって、集中と休息を繰り返す居場所探しの一日を送る。ガラス越し、廊下越しのレッスン室間の、見る、見られるの気配の交錯と、かすかに感じるお互いの音色に意識を集中する時、自己と他者との対話が広がり、自己と他者を繋ぐ想像力が響きあう、音楽の小宇宙がここに完結している。

【選考委員】  
山本圭介・陶器三雄・河野晴彦

# 施工者 より

## 理想の音楽教育環境のあくなき探求と実現

桐朋学園大学調布キャンパス一号館は、調布市に古くからあった学生寮を解体し、その跡地に再生された新キャンパスです。最高の音楽環境を提供するために、周辺環境に配慮しながら、建築主、設計者、施工者が三位一体となって知恵を絞り、造り上げました。

着工当初はまだ馴染みの薄かったBIMという先進の手法を用い、複雑な建物形状や架構形式、教室のレイアウト等ありとあらゆる検証が行わ

れました。施工者としても手探り状態からのスタートではありましたが、結果的には、施工方法や手順の検証やデジタルモックアップによる合意形成などBIMが大活躍することとなりました。

この度、関係者全員の努力が実を結び、栄えあるBCS賞を受賞できましたことを大変嬉しく思うとともに、才能溢れる未来の音楽家がこのキャンパスから巣立っていかれることを心より願っております。



清水建設株式会社  
東京支店工事長  
**百瀬 慎**  
Makoto Momose

### 計画概要

建築主：学校法人 桐朋学園

設計者：(株)日建設計

施工者：清水建設(株)

所在地：東京都調布市調布ヶ丘1-10-1  
竣工日：2014年3月30日

敷地面積：3,305㎡  
建築面積：1,939㎡  
延床面積：5,165㎡

階数：地上2階、地下1階  
構造：鉄筋コンクリート造  
(一部壁式鉄筋コンクリート造)